

今後の課題	メールという手法は子供のニーズにあったものだが、顔も見えない、声も聞こえない相談には限界がある。そこで関係機関と調整を図り十分なフォロー体制をとる必要がある。
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	思春期メール相談 ■思春期における性教育の推進
<p>**** コメント ****</p> <p>思春期相談には工夫が必要である。本質と流行の両者に対応するシステムが運用されている。この三重県の県民局は、インターネットメールアドレスにて相談を受け付けている現代的な取り組みをおこなっている。携帯メールを利用して相談アドレスにアクセスする子どもも多いのだろう。顔も見えない、声も聞こえないという、デジタルな領域には、どのような特徴をもつ相談が寄せられるのか、それらについて知見をつむことができるだろう。(KM)</p>	

からだのこと

友達のこと

性のこと

家族のこと



メール相談

思春期ほっとメール
メールアドレス:nhoken2@pref.mie.lg.jp

※秘密は守るので安心して相談してね。

料 思春期ほっとメール（周知用配布資
（カードサイズ／両面刷り）
※Webページ上でも告知

からだのこと、性のこと、
友達のこと、家族のことなど
気軽に相談してみませんか？



※電話で相談したい場合は下記までおかけください。

〒515-8566 三重県伊勢市勢田野622

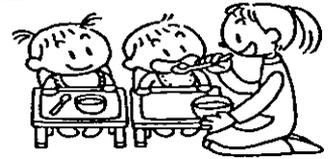
三重県南勢志摩県民局保健福祉部

保健衛生室 健康増進グループ

TEL0596-27-5153

天間林村健康福祉課 赤ちゃんふれあい体験学習		
住所 〒039-2701 青森県上北郡天間林村大字天間館字森ノ上 359-5 (TEL)0176-68-4631 (FAX)0176-68-3536 E-Mail tem-kenkou01@net.pref.aomori.jp		
人口 8,780 人(出生数 70 人) 母子保健担当者:事務 保健師、全保健師数 6 人(母子保健担当保健師数 2 人) 区分:市町村(保健センター等)		
事業課題	<ul style="list-style-type: none"> ■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進 ■妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 ■小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備 ■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ (栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進) 	
事業の背景	<ol style="list-style-type: none"> 1 出生率の低下により、子ども達が日常生活の中で、乳幼児と接する機会が少なくなっている。 2 地域保健と学校保健が連携し、授業の一環として乳幼児とふれあう機会をつくる。 	
提案者	母子保健担当者 その他(学校関係者、教育委員会)	
事業のねらい・目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 赤ちゃんのかわいさや肌のぬくもりから命の大切さを学ぶ。／2 思いやりのこころを育む／3 父性・母性を育てる／4 子育ての苦労と喜びを知る／5 親への感謝の気持ち、大切さを知る／6 乳幼児の成長発達過程を理解する <ul style="list-style-type: none"> ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する 	
数値目標	数値目標なし	
事業内容	対象	乳児 幼児 思春期 父親 母親 妊産婦
	実施期間	平成 7 年 12 月 ～ 平成 13 年 12 月 6 年計画
	実施内容	一年前に、接した乳児に翌年再開する形式をとり、乳幼児の成長発達過程の理解を学ぶ。 ／①着替えの手伝い／②身体計測見学／③遊び／④離乳食試食／⑤母親から育児について聞く ■その他(記入なし)
	協力機関	保健センター・保健所 学校 教育委員会 その他
	住民参画状況	なし その他(乳幼児健診の対象者)
	従事者内訳	保健師 医師 教員 養護教諭 その他
	補助金・助成金	市町村
事業の評価	・中学校で実施したことより、中、高と系統づけをすることができた。／・事前学習の時間をもうけたことにより、保健に関する指導をすることができた。このことにより、生徒との面識ができ、当日は緊張することなく、進めることができた。／・性教育と、体験学習がそれぞれ単発で実施されるため、関連性が薄い。	
今後の課題	高校生では時期が遅い。対象を小学校高学年、中学校としたほうがよいのではないか。	
取り組みの事業に関するホームページ		
キーワード	乳児健診 中学生 ふれあい体験 ■思春期における性教育の推進	
<p>**** コメント ****</p> <p>これも赤ちゃんふれあい体験事業の1つである。とてもユニークな内容が含まれている。中学生を対象にしているのだが、2年続けて実施するという努力と、さらには、1年前に接した乳児に翌年再会する形式をとっているという驚くべき手間がかけている。赤ちゃん側の家庭の理解があってこそ、すなわち、村民の協力と信頼があってこそこの事業であるといえる。乳幼児の成長発達過程を学べるということはもちろんのこと、そこに生命に対する言葉にならない驚きや不思議さがやどる可能性があり、これこそが「いのちの教育」の1つであるといえる。(KM)</p>		

赤ちゃんふれあい体験を終えて…



榎林中学校3年生 感想

- ・今日、実際に会ってみてすごくいい経験になりました。赤ちゃんは体が柔らかくて、やさしく抱かないと泣いてしまうので気をつかいました。
- ・最初は自分の担当の子供がきてもなかなか声をかけにくくて、泣かれてしまって大変でしたが、少しずつ声をかけたり、おもちゃで遊んだりしたら泣かれないようになりました。今日の体験はとてもためになりました。ありがとうございました。
- ・実際に離乳食を食べさせたり、身長を測ったり、だっこしてみても、すべてにおいて緊張しました。半日やっただけでも疲れたけど、お母さんたちは毎日やってすごいと思いました。
- ・疲れたけど赤ちゃんはかわいかったです。
- ・今日、学んだことは赤ちゃんに優しく接すれば赤ちゃんもそれに答えてくれることです。赤ちゃんに優しくしてあげると、赤ちゃんも笑顔でこっちを見てくれました。
- ・初めお母さんから離れず、抱っこしてもおもいきり泣かれ、どうしていいかわかりませんでした。時間がたつにつれて、遊んでくれるようになりました。
- ・赤ちゃんは言葉が言えないので、表情や動きで赤ちゃんの様子を見抜かないといけないんだなあと思いました。
- ・目を離すとすぐにいろんな所に行って泣いたりしたのが一番大変でした。自分も親に大変苦労をかけて、ここまで育ててもらったと思います。将来、子供を育てる時は大切にして、愛情をいっぱいかけて育ててやりたいです。
- ・赤ちゃんをあやすのはとても大変だなあと実感しました。離乳食はおいしくなかったけど、全部貴重な体験でした。
- ・赤ちゃんを育てるのは女性だけの仕事ではないので、男性もやるべきだと思います。僕も大人になって、出来ればそうしたいです。
- ・笑顔がすごくかわいいと思ったし、自分がいやされました。

天間館中学校3年生 感想

- ・赤ちゃんって本当にかわいいなあと思いました。
- ・最初見た時、泣かれたりして困ったけど、時間がたつにつれて、泣かずに遊ぶことができた。
- ・5年後、10年後ぐらいには、自分もこうしてここに来てみたいです。
- ・柔らかくて、すごく「生きてる」という感じがしました。
- ・お母さん達はこんなことを毎日繰り返しているんだと思うと、頭が下がる思いです。
- ・赤ちゃんの成長過程や食事など、覚えることが出来てよかったです。
- ・疲れしました。赤ちゃんはいろんなモノを口に含んだりして、ちょっと危なかったけど楽しかったです。
- ・子育ては難しいと思いました。
- ・将来はこの体験をいかして頑張りたいです。
- ・赤ちゃんとふれあい、お母さん達の苦労が分かり、とてもいい体験学習だった。
- ・今日の体験で親の苦労が分かりました。こんなに大変だと思いませんでした。
- ・赤ちゃんはいいなあと思いました。お母さんも幸せそうで、早く子どもが欲しくなりました。
- ・はじめは、子どもというのはいやだなあって思ったけど、今日、赤ちゃんとふれあってみると、すごく可愛いと思ったし、お母さんは大変だと思いました。
- ・ギスギスした心が赤ちゃんを見たときに、とてもキュートになりました。



西目屋村保健センター 子育て教室

住所 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字稲元 3-1
 (TEL)0172-85-2848 (FAX)0172-85-2838
 E-Mail nishimeya-hoken@net.pref.aomori.jp

人口 1,896 人(出生数 7 人)
 母子保健担当者:事務 保健師、全保健師数 2 人(母子保健担当保健師数 1 人)
 区分:市町村(保健センター等)

事業課題	■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進 ■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	
事業の背景	家族や地域ぐるみで子育てを支えるためにあらゆる機会を通して、妊娠・出産・育児(子育て)に関する知識の普及啓発を行うことが必要なため。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい・目標	・心も体も健やかな思春期を送るために、保護者にも思春期の心と体の変化を知る機会や、正しい知識が持てるように学習会を実施する。／・母性、乳幼児の健康の保持増進のため、妊娠・出産・育児(子育て)に関して相談に応じて個別または集団的に必要な指導、助言を行い知識の普及を図る。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める	
数値目標	数値目標なし	
事業内容	対象	幼児 学童 思春期 父親 母親 家族
	実施期間	平成 14 年 4 月 ～ 平成 19 年 3 月 5 年計画
	実施内容	・教育委員会・保育所・小学校・中学校と協力し、小・中学校・保育所の参観日に「子育て教室」を実施する。保護者は興味があれば、どの教室にも参加可能である。PTAの成人教育講座での健康教育としても実施しているため、PTA会長等の担当者とも協力しながら実施している。 ／・小学校と中学校には、思春期をテーマにした講話も実施している。／・働いている保護者が多いため、単独開催は難しく予防接種時に空き時間を利用して実施している。今年度は第1回目は歯科講話を実施し、2回目は絵本の読み聞かせを予定している。 ■既存事業の工夫 ■ネットワークの推進
	協力機関	保健センター・保健所 保育園 学校 教育委員会 病院
住民参画状況	なし	

	従事者内訳	保健師 栄養士 医師 歯科医師 歯科衛生士 事務職員 保育士 教員 養護教諭 その他(親業インストラクター、エアロビクスインストラクター)
	補助金・助成金	市町村
事業の評価	・事後のアンケートから、参加者の満足度を知り、満足度の増加をみる。／・妊婦や祖父母の参加率の増加	
今後の課題	子育て中の保護者の参加は多いが、妊婦や祖父母に対しても声かけをしているが、参加が少ない。	
取り組みの事業に関するホームページ		
キーワード	子育て 親業 エアロビクス 祖父母 ■地域の子育て支援の充実 ■子どもの事故防止 ■虐待の発生予防 ■思春期における性教育の推進 ■食育の推進 妊娠中からの母子歯科保健の推進	
<p>**** コメント ****</p> <p>全国的によく行われている子育て教室であるが、開催の日時が工夫されている。教育委員会・保育所・小学校・中学校と連携し、小中学校・保育所の参観日に「子育て教室」が実施されている。興味があれば、どの子育て教室に参加してもよい。PTA の成人教育講座とのタイアップもあり、多種の連携が奏功していることが伺える。保健師が連携の中心にいて、その輪が広がっていくのがわかる。知識の普及だけではなく、子育て環境にもよい影響が出ることだろう。(KM)</p>		

板柳町健康福祉課 赤ちゃんふれあい体験学習		
住所 〒038-3692 青森県北津軽郡板柳町大字板柳字土井239番地3 (TEL)0172-73-2111 (FAX)0172-73-2120 E-Mail itayanagi01@net.pref.aomori.jp		
人口 16,856 人(出生数 94 人) 母子保健担当者:保健師、全保健師数 5 人(母子保健担当保健師数 0 人) 区分:市町村(保健センター等)		
事業課題	■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進	
事業の背景	・少子化・核家族化により乳幼児とふれあう機会が減少した／・婚姻前の妊娠が増加／・核家族や仕事を持つ女が増え、夫婦で子育てや家事を協力していく必要があるが、女性への負担が大きく、子育てで悩む女性が多い。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい・目標	・少子化、核家族化により乳幼児とふれあう機会が少なくなった思春期の子供たちに対し、乳児とふれあう機会を提供することにより、赤ちゃんをかわいいと思え、命の尊さや性の尊重について学ぶ／・赤ちゃんの父親、母親から育児について話を聞き、育児の喜びや大変さを学ぶ ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する	
数値目標	なし	
事業内容	対象	乳児 思春期 父親 母親 関係者・関係機関
	実施期間	平成 13 年 12 月 ～ 平成 23 年 12 月 10 年計画
	実施内容	町内の6年生を対象に事前学習を実施した後、乳児健診の場を利用し赤ちゃんふれあい体験学習を実施。 体験学習当日はグループに分かれ赤ちゃんとふれあい、オムツ替えや着替えを手伝ったり、健診の流れに沿って計測、診察の見学や離乳食の試食などを体験する。 ■既存事業の工夫 ■マニュアル・ガイドラインの作成
	協力機関	その他(医師会)
	住民参画状況	その他(協力として乳児と母親)
	従事者内訳	保健師 栄養士 医師 事務職員 教員 養護教諭
	補助金・助成金	なし

事業の評価	・児童のアンケート結果より、赤ちゃんをかわいいと思う児童数、育児が楽しそうと思う児童数／ 体験学習に参加してくれた乳児の母のアンケート結果より、今後も赤ちゃんふれあい体験学習を 継続してほしい、必要だと思う母の数／ ・児童の感想文 ■今後も継続する
今後の課題	・事前学習1回と赤ちゃんふれあい体験学習を通し、赤ちゃんをかわいいと思う事には結びつい ていると思われるので、今後は命の尊さや性の尊重に結びつくよう、より一層学校と連携をとり、 事前や事後に学習する内容の充実を図る
取り組みの事業に関するホームページ	なし
キーワード	赤ちゃんふれあい体験学習 小学6年生 ■思春期における性教育の推進

**** コメント ****

乳幼児ふれあい体験事業は全国で数百か所でおこなわれているポピュラーな事業である。板柳町における本事業の特徴は、乳児健診の場を利用していることにある。健診における計測、診察の見学や離乳食などを試食をおこない、また、おむつ替えや着替えを手伝う。乳幼児とふれあうだけではなく、同時に町の事業に触れることができる工夫がなされている。事後評価についても質問紙を用いたものがおこなわれている。小学校6年生という比較的若い年齢を対象にしていることも評価できる。(KM)

事業風景です！



西粟倉村保健福祉課 中学生親子面談(教育委員会、中学校との共同事業)		
住所 〒707-0503 岡山県英田郡西粟倉村影石 95-3 (TEL)0868-79-7100 (FAX)0868-79-7101 E-Mail		
人口 1,762 人(出生数 10 人) 母子保健担当者:事務 保健師、全保健師数 3 人(母子保健担当保健師数 1 人) 区分:市町村(保健センター等)		
事業課題	<ul style="list-style-type: none"> ■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進 ■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ (栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進) 	
事業の背景	・中学生の生活リズムの乱れや偏食などの健康問題があります。・生活習慣の大切さは解っているがなかなか実行できない。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい ・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期から生活習慣の大切さを考え行動できるよう、中学生、保護者が一緒に将来に向けて今の生活を見直すことができる。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する 	
数値目標	数値目標なし	
事業内容	対象	学童 父親 母親
	実施期間	平成 1 年 12 月 ~ 平成 15 年 6 月 14 年計画
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の10年後の夢を語ってもらう。・夢の実現に向けて食事面から考える。 ・体験をとおして学ぶことができる。 ■既存事業の工夫 ■相談機能の強化
	協力機関	保健センター・保健所 学校 教育委員会
	住民参画状況	計画から参加 実施主体側として
	従事者内訳	保健師 栄養士 事務職員 教員 養護教諭
	補助金・助成金	なし
	事業の評価	半年後、事業について憶えているか。自分が計画したことができたか。どの程度できたか。保護者の計画の段階からの参加をえて、主体的な取り組みができた。特に、参加保護者の意識へ働きかけたことがよかった。

今後の課題	生徒(学校保健委員)にも当日スタッフとして参加してもらったが、企画の段階から参加できるようにしたい。
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	思春期 母子保健 栄養 運動 食生活 歯 ■地域の子育て支援の充実 ■食育の推進
<p>**** コメント ****</p> <p>村の中学生の親子を保健師が面談するという新規性のある取り組みである。生活習慣の大切さを共有するための事業である。中学生は何よりも親からの影響を受ける最後の年代である。親と子どもとをカップリングして、保健師がよりよい生活習慣を送ってもらうための動機づけを家庭全体にできる可能性がある。さらに、保健師は生徒の10年後の夢を語ってもらうことにしており、夢の実現に向けてどのような生活習慣を送るべきかを考えさせている。半年後に計画されている評価も妥当であるし、何よりも評価が楽しみである。未来が描けない現代、あえて夢というものを共有するという、世代を超えたコミュニケーションが豊かに展開されている。(KM)</p>	

長崎県県南保健所 思春期相談事業		
住所 〒855-0043 長崎県島原市新田町 347-9 (TEL)0957-62-3287 (FAX)0957-64-6520 E-Mail s04680@pref.nagasaki.lg.jp		
人口 163,394 人(出生数 1,397 人) 母子保健担当者:事務 保健師 栄養士、全保健師数 14 人(母子保健担当保健 4 人) 区分:都道府県保健所		
事業課題	<ul style="list-style-type: none"> ■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進 ■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ (栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進) 	
事業の背景	こどもの不登校の相談、こどもへの性教育の方法など地域に相談窓口がなく、悩みを抱えている親や市町保健師等の声を聞き、H12 年度開設。十代の人工妊娠中絶や性感染症罹患率の増加がみられ、性に関する健康教育と相談体制の必要性がある。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の子どもたちに対し、性教育をはじめとする健康づくりについての啓発。・精神的な悩みの相談、思春期の子どもに関わる親や学校関係者等の不安や悩みを相談できる体制づくりにより、適切な対応を行うことができる。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する 	
数値目標	数値目標なし	
事業内容	対象	学童 思春期 父親 母親 家族 関係者・関係機関
	実施期間	平成 15 年 4 月 ～ 平成 16 年 3 月 1 年計画
	実施内容	1. 学校へ掲示用のポスター配布し、こどもたちの目に相談先を周知した 2. 精神科医師による専門相談の実施 3. 事例検討、処遇の検討の実施 ■相談機能の強化 ■ネットワークの推進
	協力機関	病院
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師 医師
	補助金・助成金	国
事業の評価	学校関係者からの紹介や学校関係者の相談が9割を占め、教育との連携を図れるようになっていく。早期支援していくことによる精神面での安定や適切な対応ができてくると思われる。	
今後の課題	こどもたちからの直接の相談は少なく、相談しやすい体制づくりが必要と思われる。	
取り組みの事業に関するホームページ		
キーワード	思春期 母子保健 栄養 運動 食生活 歯 ■地域の子育て支援の充実 ■思春期における性教育の推進 ■食育の推進	
・*・*・* コメント *・*・*・* 思春期の精神的な問題は性の問題と並んで年々大きなものとなっている。もはや学校だけで対応できる状況ではない。県の保健所が中心となり、精神科専門医による相談の実施をおこなっている。学校関係者や保護者のみならず、子どもたち自身にもこの相談を有効活用してもらおうと、この資源に関する情報が学校に掲示されている。精神的な障害や受診・治療に関する偏見はいまだ根強い。継続して事業がおこなわれれば、学校における偏見をできるだけ少なくして、相談や受診につなげられることが期待できる。ちなみに、福岡県ではすべての県立高校(全日制)に精神科医が指定されており、年に 2 回以上の相談をおこなっている。15年の歴史をもつこの事業の1つの大きな成果は、精神科医に受診するということの偏見が学校現場で少なくなったことだという。(KM)		

思春期相談のお知らせ

◆悩んでいることをお話ししてみませんか？

学校に行きたくない
友達とうまくつきあえない...

落ち着かない
イライラする...
気分がさえない

後、よく眠れない...
いつも何かたべていないと落ち着かない...

もっと自分の体のことを知りたい
自分に自信がない
人からどう思われているかひどく気になる

◆気軽にご相談ください。

「思春期何でも相談」(長崎県県南保健所内)



日時：毎週月曜日 9:00~17:30
電話番号：0957-62-3287
住所：島原市新田町347-9



*相談したことは、他の人に話すことはありません。
みなさんの悩みや知りたいことを少しでも解消できるように
お手伝いをさせていただきます。

思春期相談のお知らせ

◆こんなことで悩んでいませんか？

学校に行きたくない
友達とうまくつきあえない...

落ち着かない
イライラする...
気分がさえない

後、よく眠れない...
いつも何かたべていないと落ち着かない...

もっと自分の体のことを知りたい
自分に自信がない
人からどう思われているかひどく気になる

◆気軽ににご相談ください。

思春期なんでも相談 (長崎県県南保健所内)



日時：毎週月曜日 9:00~17:30
電話番号：0957-62-3287
住所：島原市新田町347-9



*相談したことは、他の人に話すことはありません。
みなさんの悩みや知りたいことを少しでも解消できるように
お手伝いをさせていただきます。

品川区 健康課 ひきこもり家族教室		
住所 〒140-8715 東京都品川区広町 2-1-36 (TEL)03-5742-6745 (FAX)03-5742-6883 E-Mail kenko@city.shinagawa.tokyo.jp		
人口 328,058 人(出生数 2,395 人) 母子保健担当者:事務 保健師 栄養士 歯科衛生士、全保健師一 数 30 人(母子保健担当保健師数 5 人) 区分:政令市・特別区(本庁・保健所等)		
事業課題	■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進	
事業の背景	継続して行ってきた思春期講演会のテーマを 13 年度は「ひきこもり」に絞ったところ、参加者から希望があり又ピアサポートの視点からも必要性があると判断し事業化した。	
提案者	その他(精神保健担当保健師)	
事業のねらい・目標	「ひきこもり」に悩む家族に集まる場を提供し、本音で語り合い、学び合うことで、家族の心理的な安定を図り、ひきこもりへの対応能力を高める。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める	
数値目標	なし	
事業内容	対象	家族 ～ 「引きこもり本人」の年齢は、10代から30代までの幅がある。
	実施期間	平成 15 年 6 月 ～ 平成 18 年 3 月 3 年計画
	実施内容	心理士をグループワーカーとした座談会 6 回制／①ひきこもりの理解／②ひきこもりに至るプロセスと性格傾向／③家族の対応・本人の声／④自分を知るグループワーク／⑤家族教室に参加してまとめ ■個別支援や集団支援のツール開発 ネットワークの推進
	協力機関	精神保健福祉センター 大学・研究機関
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師 その他(心理士)
	補助金・助成金	なし
	事業の評価	なし
今後の課題	対象者の把握と導入	
取り組みの事業に関するホームページ	なし	

キーワード

思春期

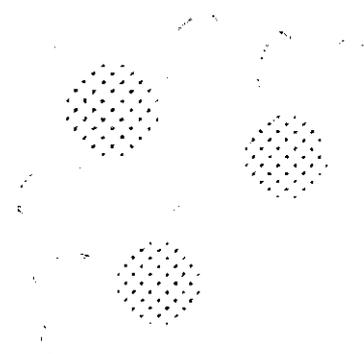
**** コメント ****

ピアとは仲間という意味でとらえるよりも、同じという意味でとらえるべきである。その意味で、この品川区の取り組みは、ひきこりに悩む家族の真の「ピア」サポートと言える。臨床心理士をグループワーカーとして招き、座談会を開催した。座談会を6回経たあとに、このピアグループがどのような変遷をたどるのか、丁寧なかかわりと支援が今後期待される。「ひきこもり」への対応がどのようによい方向に向かったのかを、長い視点でとらえることができるだろう。(KM)



今立町健康福祉課 スクールカウンセラーを囲んでおしゃべり会		
住所 〒915-0221 福井県今立郡今立町杉尾 1-27-1 (TEL)0778-43-7812 (FAX)0778-43-8889 E-Mail hoken-ji@toown.imadate.fukui.jp		
人口 13,946 人(出生数 120 人) 母子保健担当者保健師、全保健師数 4 人(母子保健担当保健師数 1 人) 区分:市町村(保健センター等)		
事業課題	<ul style="list-style-type: none"> ■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進 ■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減 	
事業の背景	3歳児健診が終ると、子供やその家族の方と話をする機会が少なくなり、思春期の子どもをもつ悩みの実態が見えにくく思春期対策事業のために取り上げた。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい・目標	<p>小・中・高校へとあがるにつれて、親の手のから離れ、社会的自立を果たしていきます。そこで、家族が悩みを話せ、学校での様子、子どもの心の理解しよりよい関係づくりができるよう支援することを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する 	
数値目標	数値目標あり	
事業内容	対象	思春期 母親
	実施期間	平成 15 年 2 月 ~ 平成 16 年 3 月 2 年計画
	実施内容	<p>グループ形式。子育てはトータルとして育つという基本的な子育て論の話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■相談機能の強化 ■個別支援や集団支援のツール開発
	協力機関	その他(記入なし)
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師 その他(カウンセラー)
	補助金・助成金	なし
	事業の評価	現在検討中
今後の課題	なし	
取り組みの事業に関するホームページ	なし	

キーワード	思春期 子ども 育児不安 ■地域の子育て支援の充実 ■思春期における性教育の推進
<p>・*・*・ コメント ・*・*・</p> <p>3歳児健診が終わってしまうと、町の保健師から親子の姿が薄らいでいく。しかしながら、親子は地域に厳然と生活しているわけであり、その姿を常に視野にいれていく工夫が求められる。今立町の本事業は、3歳児健診をおえた世代の子どもを持つ母親を対象に、関心の高い領域である子どものこころの話をできるサロンを開くものである。スクールカウンセラーを招聘し、学校では話せないこと、学校へ行く前の心配事などがうまくやりとりされる。学校以外での母親との交流は、母親だけではなく、スクールカウンセラー自身にも大変大きなフィードバックがあると期待される。(KM)</p>	



福島県 保健福祉部自立支援領域 子育て支援グループ 若者の妊娠実態調査事業

住所 〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16 (TEL)024-521-7175 (FAX)024-521-7747
E-Mail kosodate@pref.fukushima.jp

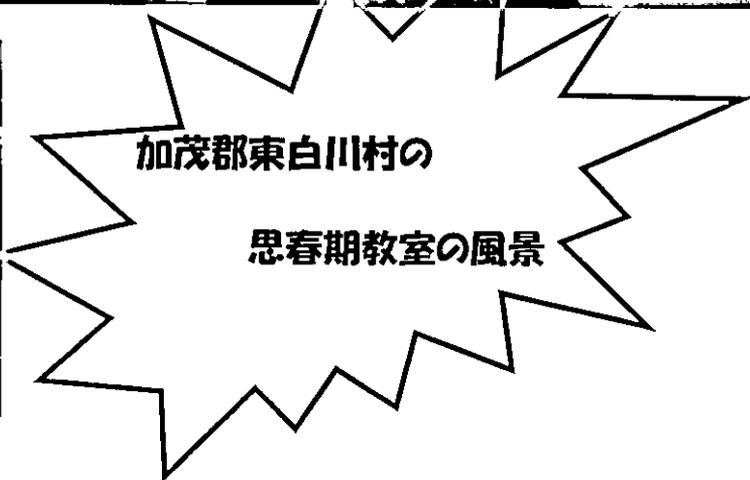
人口 2,111,866 人(出生数 19,466 人) ※ 平成 14 年
母子保健担当者:行政職 保健師、全保健師数 2 人(母子保健担当保健師数 2 人) 区分:都道府県本庁

事業課題	■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進	
事業の背景	本県の 19 歳以下(未成年者)の人工妊娠中絶実施率は年々増加しており、全国と比較しても高いなど、若者の望まない妊娠や人工妊娠中絶が多い。さらには、未成年の母親からの出生が増加しているなど、これらは思春期の男女の健康や生活に影響を及ぼしている。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい・目標	若者の妊娠や人工妊娠中絶の実態を把握し、今後の望まない妊娠による人工妊娠中絶の防止及び妊娠出産を継続するための支援策の検討に生かす ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める	
数値目標	なし	
事業内容	対象	・10代で人工妊娠中絶を実施した者 ・10代で出産した者
	実施期間	平成 15 年 9 月 ~ 平成 16 年 3 月 1 年計画
	実施内容	県内の母体保護指定医の医療機関で人工妊娠中絶を実施した者及び妊娠を継続し、出産した者を対象に、中絶、出産した医療機関から調査用紙を配布してもらい、対象者記載により、郵送で回答。 ■調査・研究
	協力機関	病院 診療所 福島県産婦人科医会 県内母体保護指定医
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師 助産師 医師 事務職員
	補助金・助成金	国
事業の評価	10 代の人工妊娠中絶の実態や性に対する意識調査から、初交年齢の低年齢化、複数の性交体験、繰り返しの中絶等性行動の問題が明らかとなり、思春期保健対策として取り組むべき具体的施策の明確化につながった。	

今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育現場での性教育の取り組みを強化し、正しい知識が得られる環境整備が図られるよう、教育庁との連携 ・医療機関と訪れた若者(ハイリスクグループ)に対する教育・指導を産婦人科医会との連携のもと強化する必要がある。
取り組みの事業に関するホームページ	なし
キーワード	<p>思春期 人工妊娠中絶 未成年者の出産</p> <p>■思春期における性教育の推進</p>
<p>**** コメント ****</p> <p>十代の妊娠の帰結は、7割弱が人工妊娠中絶、3割が出産という傾向にある。中絶にいたるか出産にいたるか、その要因については明らかになっているわけではない。妊娠とその帰結の実態について、中絶事例および出産事例の両者に焦点をあてていることが評価できる。質問紙に書かれた回答も重要な情報を与えてくれることはもちろん、回収率ひとつとってみても、今後の施策に活かすことができる重要な示唆が含まれていると考えられる。(KM)</p>	

加茂郡東白川村役場保健福祉課 思春期自立教室		
住所 〒509-1302 岐阜県加茂郡東白川村神土 692-2 (TEL)0574-78-3326 (TEL)0574-78-3326 E-Mail		
人口 3,090 人(出生数 19 人) 母子保健担当者:保健師、全保健師数 2 人(母子保健担当保健師数 1 人) 区分:市町村(保健センター等)		
事業課題	■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進	
事業の背景	東白川村では、中学を卒業すると約半数の子ども達は親元を離れ、下宿やアパートで暮らすことになる。そのため、食に関する知識や、一人暮らしをするときの知恵、性教育に関することなど、家庭での教育が不足しがちなものを学習する必要がある。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい・目標	一人暮らしに必要な知識と知恵を得る。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する	
数値目標	数値目標なし	
事業内容	対象	思春期
	実施期間	平成 7 年 8 月 ~
	実施内容	実施当初は性教育を中心に行ってきたが、最近では学校での性教育が充実してきたので、その部分のボリュームは抑え、より生活に密着した内容で実施している。ここ数年はテーマを「コンビニで昼ご飯」と題して、便利なコンビニやスーパーなどの食品・食材を、片寄った食事にならないように取り入れる方法や、利便性と同時に危険性も合わせて学習している。 また保健福祉センターの2階に母子健康センター(助産施設)があることを利用し、新生児とのふれあい体験も行っている。 全体をとおして、これから生活をしていく上で必要となる「自己管理する力」を養うための教室として位置づけしている。 ■その他(記入なし)
	協力機関	保健センター・保健所 子育て支援センター 学校
	住民参画状況	なし
従事者内訳	保健師 栄養士 助産師 その他(子育て支援室長(保育士))	
補助金・助成金	国 都道府県	

事業の評価	事業実施後、参加者にアンケートを取る。	
今後の課題	学校とのより綿密な関係をつくっていくこと。	
取り組みの事業に関するホームページ		
キーワード	思春期	地域の子育て支援の充実 思春期における性教育の推進 食育の推進
<p>*** コメント ***</p> <p>山村である東白川村では、中学を卒業すると子どもたちが村を離れることが多いという特徴がある。その村の子どもたちが他所で(親元を離れて)暮らすことになっても、元気にやっていってほしいという村の暖かい期待がこもった事業である。テーマも、コンビニ食材の選び方という切実なものに絞られていて、楽しく学ぶことができるだろう。子どもたちの反応や今後の成果は、他の年齢層への食育事業においても十分に参考になることだろう。(KM)</p>		



山口県長門健康福祉センター：園児を対象とした禁煙紙芝居		
〒759-4101 山口県長門市東深川 1344-1 (TEL) 0837-22-2811、(FAX) 0837-22-6363		
人口 42,970 人(出生数 270 人) 母子保健担当者：事務・保健師、全保健師数 5 人(母子保健担当保健師数 1 人) 区分：都道府県保健所		
事業課題	■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進	
事業の背景	当健康福祉センター管内の成人喫煙率は、県内でも高い傾向にあり、防煙教育(子ども達がタバコを吸い始めない教育)を重点対策としているが、中・高校での健康教育では既に遅く、もっと早い時期の教育が望まれることから、比較的協力の得やすい保育園・幼稚園における禁煙教育を実施。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい ・目標	・未成年の喫煙を防止する。・成人の喫煙率を低下させる。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める	
数値目標	なし	
事業内容	対象	幼児 父親 母親
	実施期間	平成 14 年 9 月 ~ 平成 17 年 3 月 3 年計画
	実施内容	保育園、幼稚園の4歳、5歳児を対象に、「子どもに無煙環境を」推進協議会制作の禁煙紙芝居を一部改変し、園児に理解できるシナリオに工夫し、園へ出向き実施した。紙芝居実施後、内容の確認をしながら、タバコの害を強調、さらに保護者宛に紙芝居の内容を知らせるリーフレットを配布し、喫煙者への禁煙支援も促した。予算は、既存事業の工夫でまかかった。 ■既存事業の工夫
	協力機関	保育園 幼稚園
	住民参画状況	計画から参加
	従事者内訳	保健師 栄養士 その他
	補助金・助成金	国 都道府県
事業の評価	紙芝居を見た園児の保護者を対象に実施したアンケート調査では、タバコの紙芝居を見たことを家庭で話したり、「タバコは体に悪い」と言ったりする園児が6~7割見られたことや、保護者の意見にも園児への防煙教育を肯定する意見が多かったことなどから、紙芝居を使用した防煙教育は一定の効果があったと思われる。	
今後の課題	・年1回程度の紙芝居による教育の効果判定の方法。 ・紙芝居等の媒体の開発。 ・保育士等による健康教育の実施へ向け、人材育成研修の実施方法。	
キーワード	保育園 幼稚園 防煙教育 禁煙紙芝居	